(19)日本国特許庁 (JP)

(51) Int.C1.7

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号 特開2003-40336 (P2003-40336A)

テーマコート*(会会)

(43)公開日 平成15年2月13日(2003.2.13)

(OI) MICOL		maco-ther. 3							,	12 1 (5.4)
B65D	81/07			A4	5 D	34/00		510) Z	3 E 0 6 1
A45D	34/00	510				40/00			Z	3 E 0 6 2
	40/00			B 6	5 D	8/06			A	3E066
B65D	8/06					25/10				3E084
	25/10					41/04			Α	
			審查請求	未請求	前求	項の数2	OL	(全 4	頁)	最終頁に続く
(21)出顧番号		特顧2001-228234(P2001-228234)		(71)出願人		、000001959 株式会社資生效				
(22)出顧日		平成13年7月27日(2001.7.27)		(71)	出魔人	東京都中央区銀座7丁目5番5号				
						4.74	21-state	一类部		

FТ

(72)発明者 高橋 俊

(74)代理人 100068157

最終百に続く

東京都江東区大島3丁目2番6号

弁理士 今岡 良夫 (外1名)

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株式会社資生景リサーチセンター(新橋浜)

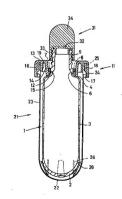
(54) 【発明の名称】 衝撃吸収容器

(57) 【要約】

【課題】 収納物に衝撃を与えないよう設けた、化粧品 等収納用の容器を提案する。

经可定品

「解決手段」 ロ頭部5の下部外面に別欠を「付きの第 「保合突条8を周散した容器体1と、フランジ状頭板13 内縁から強整した吊下げ隣14の下部内面に周散した第2 係合突条12を第1保合突条8下面へ保合させ、かつ第2 合合突条から超立した回止め突部15を切かき7内へ接合 させ、頂接外側から外側16を垂下する握時時材11と、容 器体開都を連弾させて上方前部を外間16内へ間着させて 砂けた保護筒21と、容器体15類の4線合させ、かつ頂壁 32から弾性部板34を成立するキャップ31とで形成した。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 第1胴部3上端から肩部4を介して、口 類部5を起立し、該口類部の下部を大外径部6として該 大外径部の上部に切欠き7付きの第1係合突条8を周設 する容器体1と

上距第1条合架条8下面〜除合する第2係合架条12をフ ランジ状質板13の内線から重散した吊下げ前14の下部内 面に周散すると共に、鉄第2係合架条から上配切欠き内 へ嵌合させて回止め突部15を起立させ、かつ吊下げ筒下 縮を肩部4上面へ当接させ、又上配頂板外周から外筒16 を無する影件が紅打12と、

上記撮持部材の外筒16内面へ、上方筒部を固着させて有 底の第2胴部23を垂下し、該第2胴部内には第1胴部3 を遊挿させた保護筒21と、

上記ロ頸部5へ着脱自在に螺合させたキャップ31とからなり、

上配保護筒21の底部内面から複数のパネ板26を起立して これ等複数のパネ板で容器体の底部を保持させると共 に、上記キャップ頂壁32の左右ないし前後方向中間部か らは弾性薄板34を起立させたことを特徴とする衝撃吸収 登級

【請求項2】 上記機持部材外筒16の下端部内面に第3 係合突条17を周設すると共に、該突条上方の外筒内面部 分に複数の第1備条18を縦設しておき、

又保護商21の上部を厚肉の大盤前24に、かつ拡大径部下 方前部分を得肉の弾性間に形成して、上配尺径部の上部 分面に、上配第1 国条と贈令 第2 自衆25を複数縦段す ると共に、大径部の下場面外周部を上配第3 係合突条17 上面へ係合きせ、又キャップ頂壁32の左右ないし前後方 向中間部からは弾性薄板94を起立したことを特徴とす る、請求項1 記載の衝撃破突突処

【発明の詳細な説明】

【発明の詳細な説明】
【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、衝撃吸収容器に関する。

[0002]

【従来の技術】輸送時等において、容器体内へ収納された錠剤が衝撃を受けることを防止するために、容器体上 部内へ柔軟な発泡剤を充填することが行われている。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】一般に化粧品を内容物とする化粧品を踏ま、化粧品の特性に適するよう種々の構成のものが提供されている。例えば化粧品の中には外部衝撃を受けることで損傷、具体的には有形物が変形し、又流動物が変質等するものもあり、このような化粧品は衝撃を接端に嫌うため、特別な容器を必要とする。 【0004】本発明はそのような化粧品等を収納するための容器を提案するものである。

[0005]

【課題を解決するための手段】第1の手段として第1胴

部3上端から賈部4を介して、口類部5を起立し、核口 類部の下部を大外径部6として該大外径部の上部に切欠 き7付きの第1係合突条8を周設する容器体1と、上記 第1係合突条8下面へ係合する第2係合突条12をフラン ジ状頂板13の内縁から垂設した吊下げ節14の下部内面に 周設すると共に、該第2係合突条から上記切欠き内へ嵌 合させて回止め突部15を起立させ、かつ吊下げ筒下端を 肩部4上面へ当接させ、又上記頂板外周から外筒16を垂・ 下する掃持部材11と、上記掃持部材の外筒16内面へ、上 方簡部を固着させて有底の第2胴部23を垂下し、該第2 胴部内には第1胴部3を遊挿させた保護筒21と、上記口 頸部5へ着脱自在に螺合させたキャップ31とからなり、 上記保護簡21の底部内面から複数のパネ板26を起立して これ等複数のパネ板で容器体の底部を保持させると共 に 上記キャップ直除32の左右ないし前後方向中間部か らは磁性液板34を配立させた。

【0006】第2の手段として上記第1の手段を有する と共に上記提押部材外間160下端部内面に第3係合突集 17を周駿すると共に、該突集上方の外間内面部分に複数 の第1衛条18を縦数しておき、又保護筒21の上部を厚向 の大径部24に、かつ該大径部下方筒部分を適中の弾性筒 に形成して、上記大名部の上部外面に、上記第1衛条と 噛合う第2首条25を複数縦数すると共に、大径部の下端 面外周部を上記第3係合突集17下面へ係合させ、又キャ ップ頂壁32の左右ないし前後方向中間部からは弾性薄板 34を起立した。

[0007]

【発明の実施の形態】以下図面について説明すると、1 は容器体で、半球面状に下方へ突出する第1 底壁 2 外房 から第1 開閉 2 を超立し、該月 開閉の上側から 7 部 を介して1 類似 5 を超立し、試日 2 部の下級を大外径部 6 として、該大外径部の上部に図 2 が示すように左右な いし前後所創に切欠き7を有する第1 係合突発8 を開設 している。又日頭部の上部外面には後述キャップ蝶合用 の雑ねじを開設している。

【0008】11は提特部材で、上配第1係合部下面へ係合する第2係合突条12をフランジ状頂板13の内線から下り方、無数に吊下げ商140下筋内面に開設すると共に、該第2係合突条から上記切欠き内へ嵌合させて回止め突部15を起立させ、又上記取扱外周から外間16を垂下った。該場幣が村往客選体に対して回動不能にかつ容器体を上記第1、第2係合突条の係合で吊下げたものであり、又容器体が上方移動しないように吊下げ筒14下極-7年間に下面へ当接させている。外筒16はやや長く設けてその下開内面に第3係合突条11を周設し、かつ該第3係合突条11上方の外筒内面部分に複数の第1億条18を縦数している。又その外筒との間に開びませきた。容器体第1開節外径よりも大外径の中間19を垂下している。

【0009】21は保護筒で、下方へ突出する半球面状の 第2底壁22外周から第1胴部3を遊挿させて第2胴部23 を起立し、その上方簡部を上記握持部材の外簡16内へ固 着させている。上方簡部は取肉の大径部24に、又該大外 经部下方簡部分は薄肉の弾性簡に形成し、大絃部の上部 外面には改進第1 音条18と場合う第2 音条2を複数縦散 し、大径部の下端面外周部を第3 係合突条17上面へ係合 させている。尚中筒19は大径部の内面へ緊密に嵌合させ ている。

【0010】第2座壁22の内面中央部からは複数のパネ 板26をほぼ等間隔に起立し、それ等複数のパネ板が囲成 する空間部外へ容器体底部を各パネ板の弾性に抗して押 込みし、このようにすることで各パネ板により容器体底 部を保持させている。

【0011】31は容器体ロ類部外面へ頂壁32外周から垂下する周壁33を蝶合するキャップで、その頂壁32の左右ないし前後方向中間部から頂壁直径と同一巾の弾性薄板34を起立している。又頂壁からは口類部内面へ嵌合させてシール間36を乗下している。

【0012】既述各部材はそれぞれ合成樹脂材で成形しているが、容器体1は収納物との関係上ガラス等で成形する場合もある。

[0013]

【発明の効果】本発明は既述構成とするものであり、 請 求項1 記載の場合は、第1 係合突条8 下面への第2 係合 突条12の係合と、肩部4 上面への吊下げ筒14下端面の係 合とで、黎陽外1を上下膨ケ能に握掉部材川で保護筒21 内に吊下げることとなり、かつ保護筒21内における容器 体第1 開閉3の機構れを複数ペネ板26が弾性変形して防 止することとなるから、保護師21および盤幹師材1にお られた高難を関めることが出来る。又界性数34でキ ャップに直接他物が当たることを防止することが出来 る。キャップは10頭部に対して螺合するから、打栓式キ ・ップの場合のように閉霊師2器はたが一端繋を与 えることがなく、握持部材11位容器体に対して回動不能 としたか5握持部材を持ってキャップの螺合、螺版が出 来る。

【0014】請求項2のようにすることで保護簡21と握 持部材11とを一体的に固着でき、又第2胴部23の弾性変 形を容易として、衝撃を和らげることが出来る。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明容器の縦断面図である。 【図2】 悪部断面の展開図である。

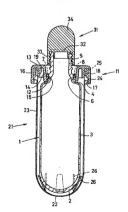
【符号の説明】

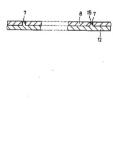
31…キャップ

8・第1係合突条 11・・・ 編字部材 12・・第2保合突条 14・・・ 保子で育 15・・ 回止め突部 17・・ 第3係合突条 18・・ 第1 個条 25・ 第2 9番

【図1】







フロントページの続き

(51) Int. Cl. 7

織別紀号

FΙ

テーマコート'(参考)

B 6 5 D 41/04

B 6 5 D 41/04 81/10

(72)発明者 尾崎 尚武

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株

式会社管生堂リサーチセンター (新横浜)

(72)発明者 鳥居 晶仁

神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1 株

式会社資生堂リサーチセンター (新横浜)

(72)発明者 飯塚 茂雄

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉

野工業所内

(72) 発明者 水嶋 博

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉 野工業所内

Fターム(参考) 3E061 AA30 AB09 AD04 DA02 DA06

DB01

3E062 AA09 AB08 BB02 BB09 CA01

FB03 FC06 GB06 GB08

3E066 AA66 CA01 HA03 JA01 NA60 3E084 AA04 AB09 BA01 CA01 CC03

DA01 DC03 FA09 FB01 GA04

GB04 HA05 HB02 JA20 KA20